“機能的に活用される 個別の教育支援計画”の 実現に向けて

刈谷市立刈谷特別支援学校
（令和２年度愛知教育大学
特別支援教育特別専攻科生）

個別の教育支援計画

❖障害のある児童生徒についてそのニーズを正確に把握し、家庭、地域及び医療や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への一貫した教育的支援を行うために策定する計画。

❖策定に当たっては関係機関との連携が必要。また保護者の参画や意見等を聴くことなどが求められる。

※中央教育審議会答申（平成17年12月８日）より一部抜粋

◆個別の教育支援計画をめぐる変遷◆

年	法令・報告等	事柄
H14.12（2002）	「障害者基本計画」	障害のある子どもの発達段階に応じて、関係機関が適切な役割分担の下に、一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画（個別の教育支援計画）を策定して効果的な支援を行う。
H15（2003）	「今後の特別支援教育の在り方について」（最終報告）	障害のある児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業までを通じて一貫して的確な教育的支援を行う。
H21（2009）	幼稚部教育要領 小中並びに高等部学習指導要領　告示	個別の教育支援計画策定の義務化 「家庭及び地域や医療、福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で幼児児童生徒への教育的支援を行うために」
H29（2018）	幼稚園教育要領 小中並びに高等学校学習指導要領　告示	特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒について準用（義務化）

しかし…

▹教師自身が「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を同次元で捉えてしまっている。

▹“コピペ”で策定した計画、校内の金庫に保管。（前年度踏襲の傾向）

▹個別の教育支援計画をもとに関係諸機関との支援会議を実施されていない事例も多く、専門家等を交えた「策定」には程遠い。

“活用されない”という課題が続いている…

支援目標と指導目標の違い

両者の次元の違いを意識することが活用への近道！

◆問題の所在◆

実効性のある計画が必要

「策定」は定着しているが、機能的に活用されていない。

策定に追われる「徒労感を生み出すツール」になっている。

個人情報を保護しつつ、同時に日常的に活用し、授業改善や家庭生活支援に生かされることが必要。

「個別の教育支援計画の作成と活用に関する現状と今後の方策」（2017、藤井）より
「発達障害のある子どもの教育を保障する道具
－特別支援教育における個別の教育支援計画の在り方－」（2006、長澤）より

◆研究目的◆

本校の「個別の教育支援計画」を機能的に活用するための方策を、先駆的な事例から検討する。

具体的な活用に向けたステップと、実効性のある個別の教育支援計画の実現に向けた手立てを提案する。

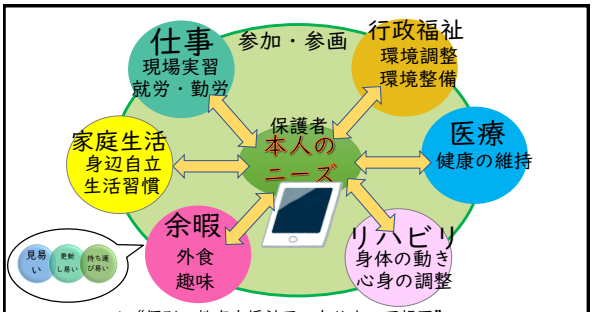
◆研究仮説◆

【仮説】

使いやすいツールと見たくなる内容の工夫で「活用される」個別の教育支援計画が実現する。

【解決のための手立て】

個別の教育支援計画の策定方法・ICT機器の活用で、「活用したい個別の教育支援計画」が実現する。



▲“個別の教育支援計画の在り方の理想図”

【活用したい個別の教育支援計画に向けて】

達成に向けてのビジョン

【３年後の目指す姿】
・関係諸機関の専門家と合同会議等を行い策定する。
・ツールの多様化（アプリ化等）

【１年後の目指す姿】
・各関係機関の共通書式として活用される
・更新頻度が高まる。

◆仮説◆

使いやすいツールと見たくなる内容の工夫で「活用される」個別の教育支援計画が実現する。

【活用したい個別の教育支援計画Ⅰ】

①策定そのものに専門家が介入する。（SSWの介入の実際）

②活用の際に費用支弁を行う。

▷教師が費やす作成時間を多機関に移せたら…支援計画を立てる専門家

▷使えば使うほどに、メリットがあれば…

◆使わない手は、ない。

夢物語でもない

【活用したい個別の教育支援計画Ⅱ】

①リアルタイムでの情報更新。→アプリ化

②学びの履歴（子の成長）が一目見てわかる。→写真・動画の活用

▷地域への情報発信に繋がったら…

▷成長過程をたくさんの人と共有できたら…

▷地域に活躍の場ができたら…

ワクワク

◆学びの履歴を見たくなる。外に向けて発信したくなる。

【活用したい個別の教育支援計画Ⅲ】

①策定時に、個別の教育支援計画オンライン会議を行う。

▹学びの方向性を同時期に専門家チームで合意形成できたら…

▹多面的かつ適切な評価でより旬な学びを得られたら…

◆本人・保護者が安心できる。
自己実現への希望がもてる。

地域の
共通言語

◆まとめ◆

＊策定の意義を明らかにする。
何のための「個別の教育支援計画」なのか、常に立ち返って思考する。→児童生徒の自己実現のためのツール

＊「一緒に作る」を目指す。
子どもを中心に関係諸機関が連携し、情報を共有する。

＊日常的に活用するための仕掛け。
使いたくなる個別の教育支援計画にするためのツールの工夫も必要。

◆参考文献・著書◆

▹「評価にむすびつく個別の指導計画の作成をめざして：主体的に学ぶ力」を支える個別の指導計画と評価のあり方」（小倉靖範　2003）

▹「発達障害のある子どもの教育を保障する道具－特別支援教育における個別の教育支援計画と個別の指導計画の在り方－」（長澤正樹　2006）

▹「個別の教育支援計画の作成と活用に関する現状と今後の方策－特別支援学校教員に対する質問紙調査から－」（2017　藤井慶博・高田屋陽子）

▹「学校に作業療法を」（2019　著:仲間知穂　出版：クリエイツかもがわ）

▹「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（2003　文部科学省）

▹「ICF　情報把握・共有システムを使った地域支援体制づくり」（2018　碧南市）